

平成21年度 研究戦略プロジェクト事業 研究成果報告書

平成22年6月30日

公立大学法人横浜市立大学  
理事長 様

平成21年度 研究戦略プロジェクト事業 (K2112) で行った研究成果等は下記のとおりです。

記

1 研究代表者 情報	研究代表者氏名 (所属・職位)	山根 徹也 (国際総合科学部・准教授)			
	研究室 Tel・Fax			Fax (なし)	
	E-mail アドレス				
2 事業情報	新規・継続の分け	継続 (継続の場合…H20年より継続)			
	研究費の区分	共同研究推進費 (文化・教育 (文系))			
	研究課題名	世界の中の日本を理解するために最低限必要な近現代史教育の教科書作成			
	研究実施期間	平成21年7月7日 ~ 平成22年3月31日			
	研究ユニットの構成  ※研究代表者も含む ※研究計画書と相違のないようにご注意ください。	所属名・企業名等	役職名	氏名	役割
	<代表者> 横浜市立大学	准教授	山根徹也	ヨーロッパ近世史に視点を置きつつ、近現代世界の構造的・歴史的理解の枠組みを提示し、その中に日本近現代史を位置づける。本研究では、編集責任者を担う。	
	<分担者> 横浜市立大学	教授	上杉忍	日本を中心にすえた近現代世界史の構築。高校歴史教師との連絡、日本学術会議高校地理歴史科教育に関する分科会との連絡。本研究では、研究会、講演会の開催の企画・運営を担当する。	
	横浜市立大学	教授	永岑三千輝	二つの世界大戦におけるヨーロッパとアジア、特に日本との関連。ファシズムに視点を定めて。	

		横浜市立大学	教授	金子文夫	近現代世界における植民地支配とその独立の脈絡の中で、今日の世界の貧困問題を捉える。
		横浜市立大学	教授	本宮一男	近代世界形成過程における「鎖国と開国の日本」をどのように捉えるか。
		横浜市立大学	准教授	乙坂(佐野)智子	「世界史」の序奏としての13世紀のアジア世界。特にモンゴル帝国とパクス・タタリカの世界。
		横浜市立大学	准教授	松本郁代	「前近代」の日本を世界「近現代史」の形成過程にどう位置づけるに関する研究。

3 研究経費	決定額 2,400,000 (円)					
	決算額 0 (円)					
	決算額内訳 (円)	設備備品費	消耗品費	国内旅費	謝金	その他

**4 研究概要**

昨年度採択された研究プロジェクトが継続して採択され、当研究ユニットではひきつづきプロジェクトの共同研究を行った。当プロジェクトの目標は、大学における新たな世界史教育の開発にあった。そのために、学内で活動する各分野の歴史研究者を結集して、世界史教育のありかたの探究、この探究をいかした共同授業の実践、および研究成果としての大学教科書的書籍の刊行に取り組んだ。

**5 研究成果**

※研究成果については、2,000字程度で記入して下さい。(絵、図入りも可)

※地域貢献促進費の方は課題提案者に提出する報告書(必須)をご提出頂きますので、この欄は記載しないで結構です。その他の方は別紙を用意せず、この枠の中に記入するようにして下さい。(枚数は問いません)

当プロジェクトの目標の一つであり、共同研究成果を反映する、共通教養科目「歴史から今を知る」の実践を成功のうちに行うことができた。この授業の目標は、1学期全15回の授業のなかで、世界近現代史を考えるための素地を提供することであり、そのために分野を越えた共同授業に取り組んだ。大学としては今までに例をみない授業実践をなしえたと考える。

また、共同研究の成果として、大学教科書的書籍『歴史から今を知る—大学生のための世界史講義』(上杉忍・山根徹也編)を共同執筆した。歴史研究書と歴史教科書の出版で国トップレベルの出版社である山川出版社より、平成22年9月に刊行することが決まっている。

この成果は、これから学界、大学教育界に一定の反響を呼ぶものと期待している。当ユニットメンバーは、これまでのプロジェクトの成果を、今後も関連授業「歴史から今を知る」の共同授業と、なんらかのかたちでつづけられる共同研究や、各自の歴史研究の土台として活用するであろう。

## 6 研究成果の活用（予定）

例) 平成 22 年度 科学研究費補助金（基盤 S）に申請予定

例) 第〇会 〇〇学会に論文発表予定

例) 研究成果が横浜市〇〇事業に活用され、当該事業の PR イベントが開催された際に広報チラシ等に「横浜市立大学 研究戦略プロジェクト事業」との関連を記載した。

上記のとおり、大学教科書的書籍『歴史から今を知る—大学生のための世界史講義』（上杉忍・山根徹也編）が山川出版社より、平成 22 年 9 月に刊行される。同書「まえがき」に「横浜市立大学 研究戦略プロジェクト事業」との関連を明記した。また、同書は、関連授業「歴史から今を知る」の教科書として採用する予定である。

※ページ数は増えても構いません。

以上